

「夢」をもち、「夢」に向かって努力する生徒

# 原北中学校 学校通信



令和3年4月12日 第1号  
福岡市早良区小田部7-11-1  
電話 092-851-3344  
発行者 校長 福崎 浩 信



## 置かれた場所で環境の主となれ

1年生の皆さん、本校には創立以来、先生も生徒も大切にしてきた変わることのない学校目標、校訓があります。

①挨拶・掃除・学校行事への積極的な参加を通して知・徳・体のバランスのとれた人格を磨き、一人ひとりの進路の実現に繋がる学力向上、②将来に夢と希望を持ち、地域社会に貢献しようとする態度、③相手の立場と人格を尊重し、思いやりと実行力の育成を通して、学校教育目標である「よき社会人としての基盤を身につけるための人間教育」、校訓である「磨き合う」「助け合う」「鍛え合う」を基盤にした教育を推進していきます。

2年生の皆さん、勉強はもちろんのこと、生徒会活動や各種専門委員会、学校行事や部活動の中核として学校を活性化させてください。

3年生の皆さん、個々の良さを生かし歴史に残る大活躍をしてください。同時に、進路選択という人生の大きな岐路が待ち構えているので夢と希望と強い意志をもって、立ち上がる大きな壁を乗り越えてください。

保護者の皆様、価値観が多様化し、電子機器やメディア等を介して、情報や風評が瞬時に流布されるこの時代にあって、教育をすることの容易ならざること、家庭にとっても学校にとっても同じ重要な課題であると考えております。

生徒の健全な成長を望むならば、すべては子どもたちのために、家庭と学校がそれぞれの役割を果たしつつ、相互に補完し合う透明性豊かな連携が不可欠と考えます。

保護者、地域の皆様方のご理解・ご協力を得ながら充実した一年間にしたいと思っております。

## 道は開ける(成せばなる)「環境の主人となり自分の花を咲かせる。・・・渡辺和子」

渡辺さんの父は、陸軍教育総監。常々「戦争だけはしてはいけない」と話していたといひます。渡辺さんが9歳の昭和11年2月26日、父は自宅で青年将校らに襲われます。銃弾が飛び交う中、父はとっさにわが娘を座卓の陰に隠しました。渡辺さんは、目の前で父の死を目撃し、自身は一命を取りとめます。昭和のクーデター2・26事件です。

渡辺さんは、30歳前に修道院に入り、修道会の命令で岡山のノートルダム清心女子大学に派遣され、その翌年、36歳の若さで三代目の学長に任命されました。

渡辺さんは、著書『置かれた場所で咲きなさい』（幻冬社 平成24年）の中で次のように述べています。

——はじめての土地、思いがけない役職、未経験の事柄の連続、それは私が当初考えていた修道生活とは、あまりにかけはなれていて、私はいつの間にか“くれない”族になっていました。『挨拶してくれない』こんなに苦労しているのに『労ってくれない』『分かってくれない』自信を喪失し、修道院を出ようかとまで思いつめた私に、一人の宣教師が一つの短い英語の詩を渡してくれました。その詩の冒頭の一行、それが「置かれたところで咲きなさい」という言葉だったのです。（中略）置かれた場に不平不満を持ち、他人の出方で幸せになったり不幸せになったりしては、私は環境の奴隷でしかない。人間と生まれたからには、どんなところに置かれても、そこで環境の主人となり自分の花を咲かせようと決心することができた。——

私が、福岡市教育委員会指導部学校指導課の主任指導主事を拝命したのは、平成25年3月末でした。3年間の千日修行の始まりでした。その頃、渡辺和子さんの珠玉の言葉に出会い、その後幾度となく覚悟を決める際の言葉になりました。新しい環境に置かれた全ての人が、環境の主人となり自分の花を咲かせることを、特に願う年度初めです。